

# 第1学年 国語科学習指導案

場 所 大会議室

児 童 男18名 女15名 計33名

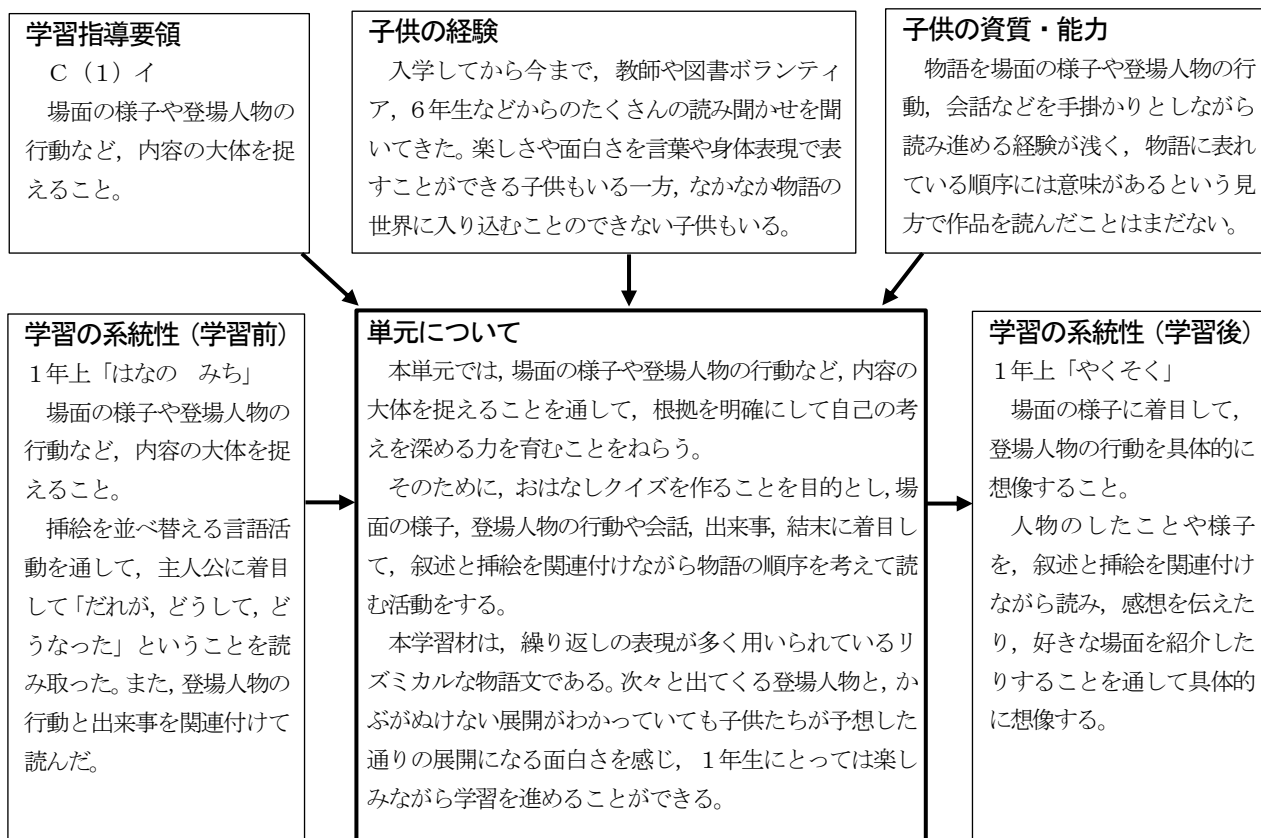
指導者 高 橋 恵

## 1 単元名

おはなしを よみ、おはなし じゅんばん くいず たいかいを しよう

『おおきな かぶ』（光村図書1年上）

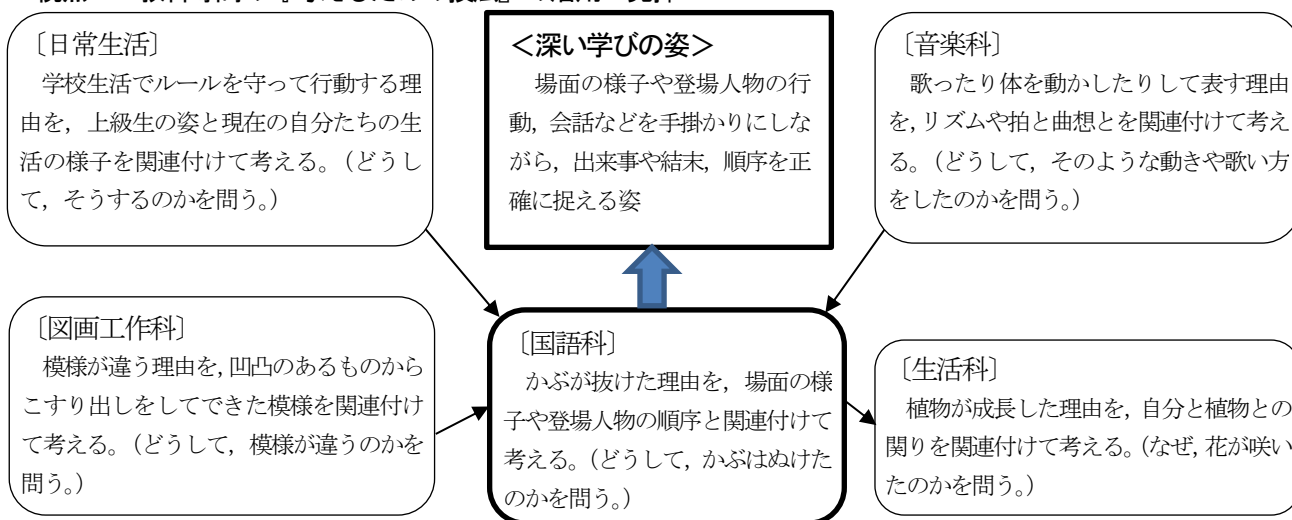
## 2 単元の指導構想



## 3 指導にあたって

そこで、根拠を明確にして自己の考えを深める子供を育てるために、その実現に向けて、以下のような手立てをとる。

### 視点1 教科等間の『考えるための技法』の活用・発揮



## 視点2 深い学びの実現に向かう単元構成

場面の様子や登場人物の行動、会話などを手掛かりにしながら、物語の登場人物の主な出来事、結末などの大体を捉えることができるようにするために、次のような手立てを講じる。

- ・ 物語に次々と出てくる登場人物には、意味があることに気付くことができるように、子供が読んだことのあると思われる「3びきのこぶた」の挿絵を提示し、「おはなし じゅんばん クイズ」を行い、「どんな順番になりますか。」と問う。そして単元の見通しをもつことができるように、単元の終末に自分でクイズを作ることを伝え、実際に作成する型のモデルを提示する。また、「どうしてこんなにおおきなかぶができたのだろう。」と考えたい意欲を抱くことができるように、推測される実物大のかぶを提示する。
- ・ 単元の課題「どうして かぶは、ぬけたのだろう。」の解決に向けて、かぶを育てたおじいさんの思いを捉えることができるように、場面の様子や登場人物の行動、会話などに着目し、挿絵と叙述を関連付けて考える場面を設定する。また、かぶを抜く登場人物の順序を捉えることができるように、登場人物の行動や挿絵の登場人物の様子に着目して「だれが、どうして、どうなった」のか考える場面を設定する。そして、捉えたおじいさんの思いと登場人物の順序を根拠として、かぶが抜けた理由をまとめるように促し、順序に着目して物語を読み、内容の大体を捉えることをねらう。
- ・ 場面の様子や登場人物の行動、会話を手掛かりとしながら単元を貫く課題「どうして かぶは、ぬけたのだろう。」で学習したことを活用できるように、「おはなし じゅんばん クイズ」を作る活動を設定する。そのために、「おおきなかぶ」で場面の様子や登場人物の行動、会話などををもとに内容の大体を捉えたことが活用されるような、登場人物の順序に意味がある内容の本を紹介する。

## 視点3 単位時間の考える活動の充実

- ・ おじいさんがかぶを大切に育てている思いを捉えることができるように、腰を曲げて手を添えながらかぶの種を撒いているおじいさんの様子が分かる挿絵などを板書に位置付ける。また、かぶを抜こうとして次々と現れる登場人物の様子を捉えたり、かぶが抜けた理由を考えたりすることができるように、「けれども」や「それでも」など、かぶの様子が分かる叙述に着目するように促す。
- ・ 挿絵と叙述をもとにして場面の様子や登場人物の行動や順序を捉えることができるように、「それが分かる言葉はありますか。」と問い、言葉をもとに考えることを促す。そして、場面の様子や登場人物の行動や順序をもとにしてかぶが抜けた理由を考えたことを自覚できるように、教師の言葉によって価値付ける。

## 4 単元の指導計画

### (1) 目標

- ・ 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。  
【知識及び技能】
- ・ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。  
【思考力、判断力、表現力等】
- ・ 学習したことを生かして活用するために、学習の見通しをもち、他者と関わりながら楽しんで考えようとする。  
【学びに向かう力、人間性等】

### (2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。	① 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。	① 学習の見通しをもち、内容の大体を捉え、他者と考えを交流しようとしている。 ② 進んで楽しみながら、学習したことを活用してじゅんばんクイズを作ろうとしている。

(3) 指導計画 (6 時間)

時	主な学習活動	指導の手立て	考えるための技法	評価規準 (評価方法)
1	<p>(1) 「おはなし じゅんばん くいず」をする。</p> <p>(2) 「おおきな かぶ」を読み、単元の学習課題を設定する。</p> <p>どうして かぶは、ぬけたのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>順序に着目できるように、「3びきのこぶた」の挿絵を利用したクイズをし、場面の順序を問う。</li> <li>抜くことができないくらい大きなかぶの想像が広がるように、挿絵に着目を促し、実物大のかぶを提示する。</li> </ul>	比較	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の見通しをもち、内容の大体を捉え、他者と考えを交流しようとしている。</li> <li>【態①→発言、観察】</li> </ul>
2	<p>文章と挿絵を見ながら、どうしてかぶが大きくなったのかを考え、おじいさんの思いを捉える。</p> <p>どうして かぶは、おおきくなったのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おじいさんが大切に育てている思いを捉えることができるように、1枚目の挿絵に注目するよう促すとともに、「あまい、あまい」「おおきな、おおきな」と繰り返しているところの言葉を板書する。</li> </ul>	関連付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。</li> <li>【知①→発言、ワークシート】</li> </ul>
3	<p>次々と登場人物が現れる様子を読み、登場人物の順序を捉える。</p> <p>かぶが ぬけるまで、どんなことがあったのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かぶを抜こうとする登場人物の順序と行動を捉えることができるように、「だれが・どうして・どうなった」かを問う。</li> </ul>	比較 関連付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。</li> <li>【思①→発言、ワークシート】</li> </ul>
4	<p>前時までに捉えた、かぶが大きくなったわけと登場人物の行動をもとに、かぶがぬけた理由を考える。(本時)</p> <p>どうして かぶは、ぬけたのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かぶがぬけた理由について、叙述や前時までに捉えたことを根拠として考えられるように、挿絵と着目した叙述を板書で整理し、かぶが抜けた理由について、「どうしてそう考えたのか。」と問う。</li> </ul>	関連付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。</li> <li>【思①→発言、ワークシート】</li> </ul>
5	<p>おはなし じゅんばん クイズを作る。</p> <p>おはなし じゅんばん くいずを つくろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クイズを作成できるように、順序に理由がある作品を用意する。</li> <li>自分でクイズを作成できるように、文型を提示する。</li> </ul>	関連付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。</li> <li>【思①→発言、ワークシート】</li> </ul>
6	<p>おはなし じゅんばん クイズ大会を行う。</p> <p>おはなしじゅんばん くいず たいかいを しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今まで読んできた複数の物語を比較して、様々な物語について順序に気を付けて読んできたことに気付くことができるように、「似ているところはどこか。」と問う。</li> </ul>	比較	<ul style="list-style-type: none"> <li>進んで楽しみながら、学習したことを活用してじゅんばんクイズを作ろうとしている。</li> <li>【態②→発言・観察】</li> </ul>

## 5 本時の指導計画

### (1) 目標

かぶが抜けた理由を、場面の様子と登場人物の行動や順序をもとにして考えることができる。  
(内容と構造の把握 (1) イ) 【思考力、判断力、表現力等】

### (2) 評価規準

おおむね満足	努力を要する児童への支援
かぶが抜けた理由を、かぶを育てるおじいさんの思いとかぶを抜こうとする登場人物の行動や順序などをもとに考えている。 [思考・判断・表現]	かぶが抜けた理由を考えることができるように、「どうしてかぶが抜けたのか。」を個別に問う。また、挿絵を提示して「おじいさんがどうしても抜きたかったから。」「つぎつぎに登場人物が増えたから。」「みんなで力を合わせたから。」の選択肢を与え、考えることを促す。

### (3) 展開

段階	主な学習活動・学習内容	教師の支援 (◇評価)
導入 (10分)	1 かぶが抜けた場面を音読し、抜けた場面を想像する。 2 課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">どうして かぶは ぬけたのだろう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>やっとかぶが抜けたことを捉えることができるように、「どうとう」とはどういうことかを問うたり、「どうとう」の前の間に注目するよう促したりする。</li> <li>かぶが抜けたときの感動を想像することができるように、最後の場面の挿絵に吹き出しを付け、子供の発言を板書に位置付ける。</li> <li>かぶの大きさとなかなか抜けなかったことを想起することができるように、実物大のかぶを提示する。</li> </ul>
展開 (27分)	3 かぶが抜けた理由の根拠となる叙述や挿絵に着目し、それらをつなげながら、音読や動作化をする。 4 かぶが抜けた理由について考えたことを交流する。 5 交流したことをもとに、自分なりにかぶが抜けた理由をまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>あとちょっとでぬけそうなときに、ねずみがきたから。</li> <li>おじいさんが たいせつに そだてた かぶを、みんなが たべたくなったから。</li> </ul> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>手立て① 前時までの学習の中で、「かぶを育てたおじいさんの思い」や「登場人物の順序や行動」について考えたことを根拠として、課題についての考えをもつことができるように、挿絵と登場人物の行動や順序など、注目した叙述を板書に整理する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>手立て② かぶが抜けた理由について、根拠を明らかにすることができるように、子供の発言に対して「それが分かる言葉はありますか。」と問う。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時までに考えたこととかぶが抜けた理由とのつながりが分かるように、矢印等を用いて板書に位置付ける。</li> <li>交流して出されたたくさんの考えの中から自分なりの理由をまとめることができるように、「あなたは、どうしてかぶが抜けたと思いますか。」と問う。</li> </ul> <p>◇ かぶが抜けた理由を、かぶを育てるおじいさんの思いとかぶを抜こうとする登場人物の行動や順序などをもとに考えている。 【思 ワークシート・発言】</p>
まとめ (8分)	6 おじいさんの思いや、場面の様子が表れるように音読する。 7 かぶが抜けた理由を考えたことについて、学習を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">どうして かぶが ぬけたのかを かんがえることができましたか。(◎・○)</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>想像したおじいさんの思いや、場面の様子を表しながら音読することができるように、どのように読めばよいか問うたり、板書を用いて抜けるまでの間や抜けたときの感動を想起するよう促したりする。</li> <li>本時の学習について、場面の様子と登場人物の行動や順序をもとにかぶが抜けた理由を考えたことを自覚できるように、教師の言葉によって価値付ける。</li> </ul>